

古着活用

3年3組9番 小林暖那
3年2組7番 片山実優

Keyword: 「リメイク」「古着」「服の廃棄量」「服の再利用」「断捨離」

1. はじめに

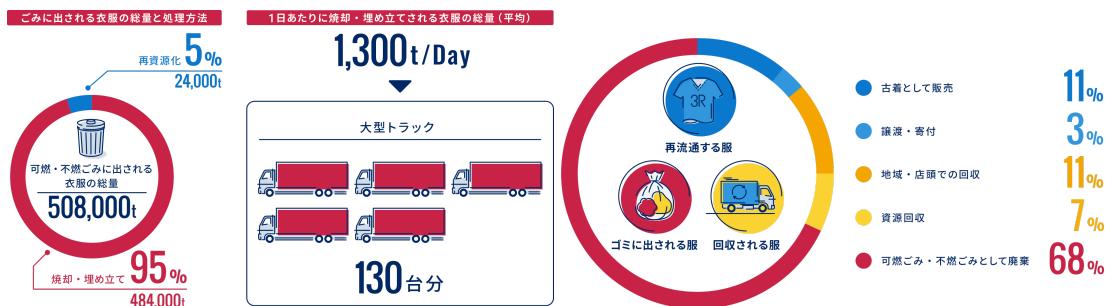
私たちがこの探究をしようと思ったきっかけは、まずははじめに2人とも服に興味があったことです。そして、私たちは服の衣替えをする際や断捨離をする際に簡単に服を廃棄してしまっていることに気がつきました。さらにSHIENやGRLなどのファストファッションが世に流れたことで服を「買う・捨てる」という行動が安易な考えで行われていると感じました。そして、自分好みに服をリメイクすることが趣味な私たちは、いらなくなつた服をリメイクすれば自分たちの服の廃棄量を減らせるのではないかと思い、この探究をすることにしました。

2. 序論

私たちの探究の目標は、「色々な人に服のリメイク方法を伝えて、服の廃棄問題に対してより深く知ってもらう」ことです。また、私たちの発信で服を簡単に捨ててしまう人達の意識を変えることです。

そして私たちの探究の問いは、「服の廃棄量を少しでも減らすために私たち学生にもできることは何か。」です。その問いの答えを求めてたくさん話し合った結果、「服のリメイク方法を広く知られるようになれば服の廃棄量が減少する」と仮説をたてました。

まず私たちは服の廃棄量について知る必要があると考え、インターネットを使い廃棄量の現状について調べました。すると、1年間で日本の家庭から焼却・埋め立てされる量は、年間約50万トン、平均すると1日あたり 大型トラック約130台分の服が焼却・埋立処分されていることがわかりました。また服の廃棄量を100%にし、焼却・埋め立ての割合と再資源化の割合を表すと、焼却・埋め立てが95%、残りのたった5%が再資源化されていることもわかりました。



3. 本論

私たちは主に4つの事に取り組みました。一つ目に服の廃棄量に着目しました。近年、服は安く質の良い服を買いやくなりましたが、まだ十分な量の服を所持できていない人がいるということを知りました。そこで私たちが使わなくなつた服、普通なら捨ててしまう服を養護施設に寄付することで、廃棄量を減らすことができるのではないかと考察しました。ですが、この探究方法では服を集めて寄付をした後の探究に繋げることが難しいため実行せずに終わりました。二つ目は最近流行している古着に着目しました。着なくなつた服をリメイクしフリーマーケットに出店することで服の廃棄量を減らすことができるのではないかと考察しました。ですがこの探究では服を集め

てそこからリメイクをしてフリーマーケットに出店するという工程に時間がかかるのとデータの収集が難しいということからこの探究を断念しました。3つ目は私たちが所属している世界のダンスが行っている「D-FES」という年に一度行う発表会で自分達でリメイクした服を衣装として着用し来場してくださった方に宣伝し服の廃棄量の現状とリメイク方法を広めようと考えました。ですが宣伝する前と宣伝した後の差がこれではわからないため探究にはならないと判断し、この探究も断念しました。四つ目は私が中学からボランティアとして活動させていただいている「せいじゅんたすけあいこども食堂」という子ども食堂で服の寄付と講座をすることで服の廃棄量の減少とリメイクの浸透につながるのではないかと考察しました。そのため、「せいじゅんたすけあいこども食堂」の方と連絡を取りこの取り組みについてアドバイスをいただき、まずは服のリメイクを浸透させる年代を絞りどのようなリメイク方法だと効果があり、私生活の中に服のリメイクが浸透するのかを考え、最終的には講座を開きリメイクについての考え方などのアンケートをとて私たちの問い合わせの解決に繋がるようにしたいと考えています。

4. 結論

自分たちの活動をまとめると、大規模な活動をしようと試みましたが活動を行う上で多くの問題点が伴い実行には至りませんでした。そして、私たちは服の廃棄量問題を世界の問題ではなく、自分たちの問題と捉え活動しようとしました。その中で私たちはいらなくなつた服を「切る、縫う、貼る」というリメイク方法を使い、自分たちの服の廃棄量を減らす活動を行いました。ですが、探究を進める時期が遅れたためリメイクを広める活動を実行できませんでした。

探究期間は終わってしまいましたが、私たちは服のリメイクを続けることに加え、リメイク方法や服の廃棄量の現状などを自分の周りに伝えていき徐々に服を安易な考え方捨ててしまう人達の意識をかえていかなければなと考えています。

5. おわりに

私たちはこの探究を通して、服の廃棄問題の深刻さを知り、その解決に向けて学生である自分たちにもできることを考え続けてきました。途中で断念せざるを得なかった取り組みもありましたが、その一つひとつの試みが学びとなり、探究をより深める糧になったと感じています。最終的には「せいじゅんたすけあいこども食堂」でのリメイク講座を軸に進めることで、子どもから大人まで幅広い世代に服のリメイクを身近に感じてもらい、廃棄量削減につなげたいと考えています。これからも失敗を恐れず試行錯誤を重ね、より実践的で効果的な方法を見出し、探究の問い合わせある「服の廃棄量を少しでも減らすために学生にもできること」を実現していきたいです。

6. 参考文献・出典

- https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/ サステナブルファッションとは（環境省）
- <https://shoichi.co.jp/sustainable/column/1353> 日本における衣類廃棄の現状とは（株式会社Shoichi）
- https://www.caa.go.jp/policies/future/topics/meeting_006/materials/assets/future_caa_cms201_1209_02.pdf ファッションと環境（消費者省）